

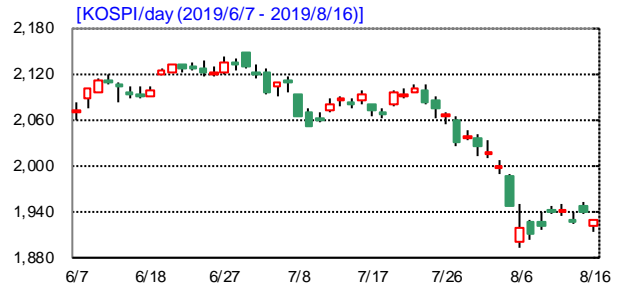


【韓国】 総合指数は 0.5%安と 4 週続落、強弱材料入り混じり一進一退の展開

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 0.5%安と 4 週続落。15 日が解放記念日で休場のため 4 日間のみ取引。強弱材料が入り交じる中で指数は 1930 ポイントを挟んだ一進一退の展開となった。週明け 12 日は値ごろ感から買い戻しの動きが続いたものの、韓国政府が日本を貿易管理上の優遇対象国から除外すると決定し、対立激化の懸念で上昇の勢いは限られた。13 日は米中対立の長期化懸念や香港デモの激化、アルゼンチン通貨ペソの急落を嫌気して 4 営業日ぶりに反落したが、14 日は米政権が「第 4 弾」対中関税の一部発動先送りを発表したことを好感して反発。休場明け 16 日は世界的な景気後退懸念からリスク回避が優勢だった。今週は引続き米中摩擦の行方や海外市場の動向などをにらみ神経質な展開か。国内では 7 月の PPI が発表される。

▼指数チャート

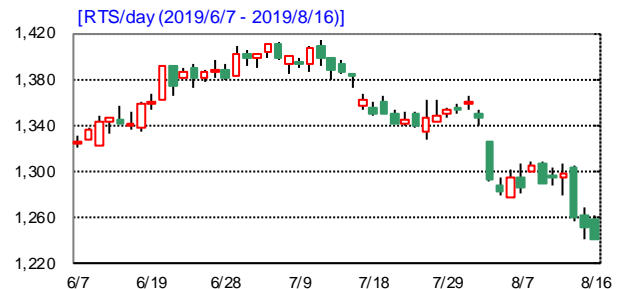


【ロシア】 RTS 指数は週間で 3.9%安と大幅に 6 週続落、今週は底堅い推移か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 3.9%安と大幅に 6 週続落。中国やドイツの軟調な経済指標やルーブル安が嫌気され、約 3 カ月ぶりの安値を更新した。週前半は原油高に加え、格付会社フィッチ・レーティングスがロシアの格付けを「BBB マイナス」から「BBB」に引き上げた動きが好感され、しっかりした展開。ただ、中国の鉱工業生産（7 月）の減速やドイツの 4-6 月期 GDP のマイナス成長を受けて世界経済の減速懸念が強まり、売り優勢に転じた。約 6 カ月ぶりとなるドル高・ルーブル安も投資家心理を冷やし、RTS 指数は約 3 カ月ぶりの安値を更新した。個別銘柄では石油のルクオイル、金融のズベルバンク、天然ガスのノバテック、ガスプロムなどの下落が指数を押し下げた。今週はルーブル反発を見越した買いで底堅い推移か。

▼指数チャート



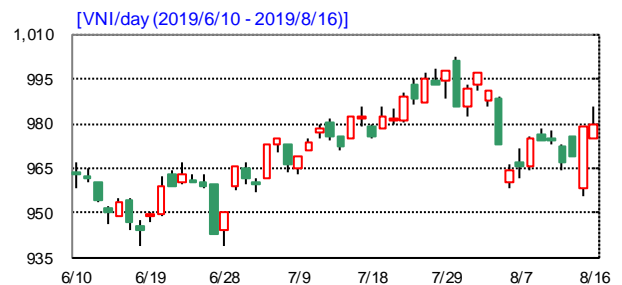
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 0.6%高と 3 週ぶり反発、今週は神経質な展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.6%高と 3 週ぶりに反発。米国の対中追加関税の先送りなどが好感され、リスク選好が強まった。香港での抗議活動や人民元安が続き、米中の貿易・通貨安戦争の激化懸念が高まったことで 13 日に指数が前日比 0.9%安となったが、その後は 16 日まで 3 日続伸。米国が中国製品に対する追加関税の発動を一部延期すると発表したほか、中国が国内消費拡大に向けて可処分所得を引き上げる対策を表明し、投資家心理が改善した。個別銘柄ではペトロベトナム・パワー（4.1%安）やベトコムバンク（0.8%安）が下落したものの、テクコムバンク（8.4%高）、ピナミルク（2.6%高）、ビングループ（1.5%高）などの上昇が指数を押し上げた。今週は米中関係や米国の債券利回り動向をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート



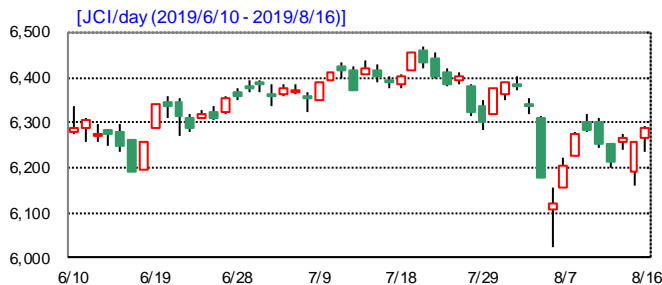


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1% 高、今週は中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 0.1% 高と小幅反発。週末の上昇が奏功した。12 日は前週末の NY ダウが下落した流れで 4 営業日ぶりに反落。13 日は米中貿易交渉の行き詰まりや、香港国際空港での抗議行動が売り材料となり続落したが、14 日はトランプ米大統領が対中追加関税の発動を一部延期すると表明した効果で反発した。15 日は 7 月の輸出額が市場予想から上振れしたものの、世界的な景気後退懸念の高まりが嫌気され反落。一方、16 日はジョコ大統領が 20 年の経済成長率の目標を 5.3% に下方修正したが影響は軽微で、反発して引けた。今週は 22 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

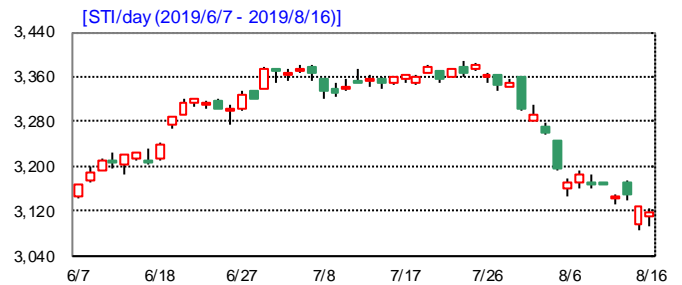


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.7% 安、貿易産業省が今年の成長率見通しを下方修正

ストレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 1.7% 安と 4 週続落。買い材料に乏しく軟調な値動きだった。連休明けの 13 日は、貿易産業省が今年の経済成長率の見通しをこれまでの 1.5-2.5% から 0-1.0% に下方修正した影響で続落。14 日は小幅に反発したが、15 日はインドネシアのプルマタ銀行への出資を検討していると報じられたオーバーシー・チャイニーズ銀行株が売られ、指数下落を主導した。16 日は 7 月の非石油地場輸出が前年同月比 11.2% 減と 5 カ月連続で前年割れとなったことが嫌気され、終値ベースで約 7 カ月ぶりの安値を更新して取引を終えている。今週は 23 日に 7 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート

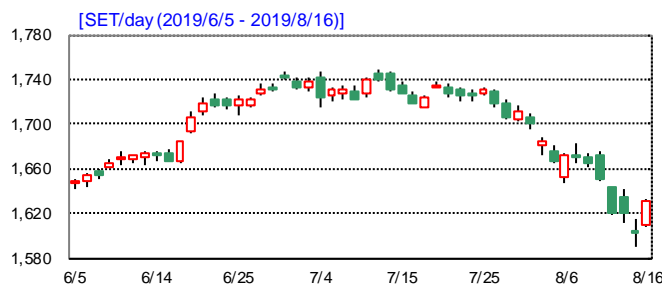


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.2% 安、今週は 4-6 月期の GDP 成長率が焦点

SET 指数は 4 日間の取引で 1.2% 安と 4 週続落。週末に反発したが補えなかった。連休明けの 13 日はアルゼンチンの大統領予備選挙で現職のマクリ氏が大敗し、株価と通貨が急落した余波などで売られて前営業日比 1.8% 安。15 日は通信アドバンス・インフォ・サービスを傘下に収めるインタッチ・ホールディングスが指数下落を主導し、終値で約 7 カ月ぶりの安値を更新した。一方、16 日は財務相が 100 億米ドル規模の景気刺激策を実施する意向を示した効果で前日比 1.7% 高と 7 営業日ぶりに反発している。今週は 19 日の 4-6 月期の GDP に続き、21 日には 7 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。

▼指数チャート

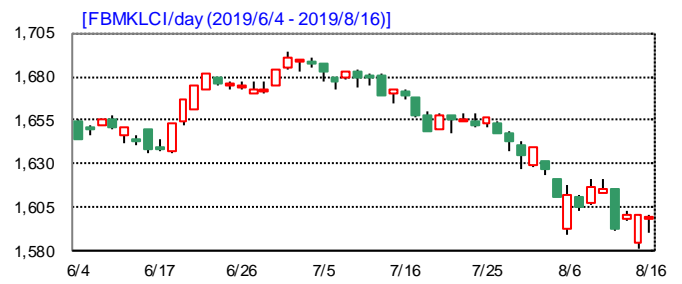


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.0% 安、13 日は終値で約 4 年ぶりの安値更新

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.0% 安と 6 週続落。1600 ポイントを挟んでもみ合った。連休明けの 13 日は米ドル高リング安が続く中、終値で前営業日比 1.4% 安と 1600 ポイントを割り込み、約 4 年ぶりの安値を更新。一方、14 日に前日の NY ダウが上昇した流れで 3 日ぶりに反発すると、その後は週末まで小幅なレンジでの値動きが続いた。16 日に発表された 4-6 月の GDP 成長率は前年同期比 4.9% とほぼ市場の予想通りだった。今週は国内の重要イベントが少なく、19 日に期限を迎えるファーウェイに対する米国の禁輸措置の一部猶予や 21 日に公表される米 FOMC 議事要旨の内容が焦点となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。